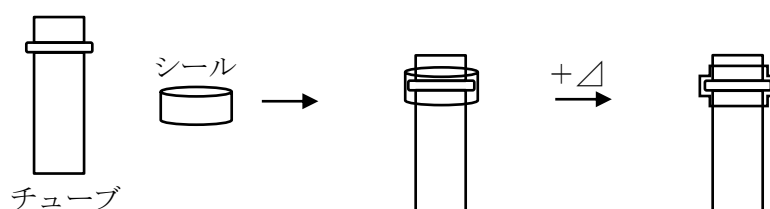


細胞ストックの作製

- 1) 培養した細胞をトリプシン処理し、遠心して回収する。
- 2) Tapping し、沈殿して固まった細胞をほどく。
- 3) 血清 (HC) を 1 ml 加え、ピペッティングして懸濁する。
 - ※ 血清 (HC) には抗生物質が入っていないため contamination しやすい。
チューブ底に沈殿が観られたら先生に報告。
 - ※ 加える血清の量は下記 Table 参照。
- 4) さらに血清 (HC) を下記 Table に従い適量加え、ピペッティングして懸濁する。
- 5) DMSO を下記 Table に従い適量加え、ピペッティングにて懸濁し、スクリーキャップのついたチューブに 1ml ずつ分注する。
 - ※ この時、チューブ本体のスクリー部分に細胞が付かないよう注意する。
もしも、付いてしまったら、パスツールで吸い取る。
 - ※ 蓋をした後は、チューブをひっくり返さないように注意。
 - ※ 蓋は適度に閉める。
- 6) 蓋にシールを被せて、エンボスヒーターで適度に加熱して蓋を保護する。
 - ※ エンボスヒーターにより加熱し過ぎないように注意する。
シールが変形し蓋に着く程度に加熱。



- 7) -80°C の冷凍庫に入れる。(貯蔵室のプラズマクラスター冷蔵庫の東側)
 - ※ この時、細胞が蓋の方にこないように静かに扱う。

- 8) 翌日に液体窒素中に移して凍結する。

Table 細胞ストック液 (+10%DMSO) の調整法

	チューブ/本	Total/mL	HC/mL	DMSO/ μL
中フラスコ	3	3	2.7	300
大フラスコ	5	5	4.5	500
大フラスコ2本	10	10	9.0	1000